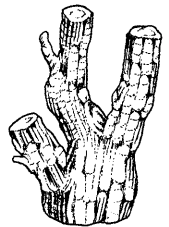


みる

中島ふじ子



子どもにとって「みる」とは、どんなことか。
この世に生まれて、真っ先に目に入ったのは何
だったのだろうか。

ひよこなら初めて目にしたものを母と慕う、い
わゆる『刷り込み』がプログラミングされている
ということは小学生だって知っている。それで
は、人間はどうかといえ、現代の出産シーンで

最初に目にするものが必ずしも母親であるとは限
らない。であるのに子どもはきちんと親を認識し
育つものであるし、間違っても取り上げた助産婦
さんについていくなどという事態は起こらない。
生まれてから一年近くも自分で歩くことは困難で
あるし、こんなに手のかかる動物は他には例を見
ない。哺乳類の中では、一番進化した動物である

はずなのに、自分で餌を捕ることもできず、すばやい動きで敵をかわすでもなく、ただただ周りの保護者に依存して育つ。そしてそれはおよそ二十年近く続くらしい。最も、保護者側の事情で何らかの変化がある場合、第三者がそれを肩代わりすることはあっても、世界中のどの国と比べても日本は子どもを大事にしている、と言ったら言い過ぎだろうか。

まず、空腹であるいは衛生面の問題で大人になる前に死んでしまう子がいけない。経済的な差はあるとしても、とりあえず食べることに窮して餓死することはない。そして、どの子どもも学校に行くことができる。家庭の事情で義務教育を受けられない子はいない。子どもにとってこんな暮らしやすい国はないはずである。

それなのに、親からの虐待で命を落とす子がいる。食事を与えない、風呂に入れない、戸外に放置する、暴力で瀕死の重傷を負わす。

いったい、その親はどんな育ち方をしたのかと思う。食べ物に約束され、住むところ、着るもの、学校……。おそらく当たり前のようには与えられ、疑うことも無くなることすら考えずに大人になり、親となってしまったのではないか。

「感謝の気持ち」などというと、仰々しいと嫌がられるかもしれないが、衣食住に困らない幸せ、教育を受けられる幸せを一度でも考えたことがあるだろうか。あまりにも当たり前なこととして雑に生きてはいないだろうか。

虐待を受けている子どもは、ひと目でわかるという。以前、娘の友達でそれらしき子がいたのが思い出される。突然転校してしまい、消息を絶っていたが、去年の夏祭りで五年ぶりに見かけた。五年の歳月で、彼女を取り巻く環境が改善されたのか、ずいぶん表情が明るくなっていて、ほっとした。当時は、風呂にも入らず、目線がしょっちゅう泳ぎ、夏も冬も同じピンクのワンピース姿

だった。物凄い早口で落ち着きが無く、嘘ばかり言っていた。そして、絶えず大人の動向を探っていた。

「コノヒトハイヒト？　ワタシラブツ？」

大人を見る子どもの目。愛情に包まれ、しっかりと自己表現できる子とそうでない子とは、かなり差があるようだ。後者は自己防衛のために嘘をつき、鎧を着る。大人を寄せ付けない、それだけで悲しいほど疑り深い。目に見えないシャッターが下りている。

「みる」から児童虐待にスライドしてしまった。

この見えないシャッターを持つ子が増えてきた、と感じるこの頃……。

私が親となり、子育てをしているうち「子ども劇場」というものに出会った。漫然とTVから垂れ流しにされる雑多な情報に危機感を覚え、「子どもの文化は、親子で自ら選び創ろう」という『げきじょう運動』である。当時、長男を幼稚園

に入れ、長女を出産したばかりで精神的にも余裕がなかったはずなのに、「親子で生の舞台を観る」ことに何の抵抗もなかった、というより、こんなに飢えていたのだ……とうれしかった。会場のシートに埋もれるようにして座っていたちいさな息子が、舞台に引き込まれるように、食い入るように観ている、というのも驚きだった。娘は泣きもせず、おとなしく抱かれているか、保育室で眠っていた。数々の印象深い演目がある中、どの回も違った感動を受け、幼かった子どもたちも高校生・中学生になった。その間、キャンプに行ったり、バザーに出店したり、子ども新聞を作ったり、さまざまな体験をしてきた。

子ども劇場には、年に五、六回の観劇の他、野外活動や異年齢や仲間づくりなど多彩なプログラムがある。たいがい子ども年齢が上がってくるにつれ、いつしか卒業していくものであるのだが、我が子たちは一向に「辞める」と言わない。

特に上の子など、部活が忙しくて年に一、二回しか観られないのだが、それでも「もしかして、行けるかもしれない」と思っている。地域の子ども会・学校などでは限られた人間関係だが、近隣の学校の違う友達や異年齢の関わりを通して、子どもたちは交友関係を広げてきた。やはり、生の舞台を観る空間を共有することで、学校での「みんな一緒に」とは違った親近感があるのだと思う。芝居を観るのが好きではあるが、優先順位からいえば部活の方が上だし、なくてはならないものでないかわりに、あってもいいものであるらしい。

ところが、近年全国的にみてもどこの子ども劇場も会員数を大幅に減らしている。長引く不況の影響で余暇・娯楽の域にある観劇など、真っ先に削られる運命だとは思いますが、どうも価値観の変化がその理由なのでは、と思われる。子どもに掛けるお金の中身が変わってきた、つまり親が出すお

金は塾・アミューズメントへと流れていき、文化費はゼロでもよいと考えられているようだ。つまり、何にお金を掛けて安心を得られるか……それは一昔前のそれとは違って、バブル時代のツケがこんなところにも波及して、曰く「よい塾に入れないと受験の時苦労する」、曰く「せっかくの休みに行くんだったらDランドで存分に遊ばなくちゃ。新しいイベントは絶対見なくちゃ」といった具合に子どもがブランド物を持つことや、携帯電話の料金がかさむことには無頓着であるのに対して、月に千円ほどの会費は惜しいらしい。

要は、「楽して、便利に」というものに弱いのであって、高価な教材や講習料などをケチると不安なので「我慢しなさい」とは言えないのだ。

「うちはうち、よそはよそ」などと言われて育った親はもう少なくなってきたようだ。だから、我慢のできない子どもが増えてきている。親自身が我慢の経験がないのだから、「これを我慢してこっち

を」とは考えない。考えたにせよ、それはどちら

が楽か、便利かにおいてである。流行発信源の女子高生たちのあいだではそれが「かわいいから」という理由でもっと曖昧になっている。長く使えるかどうかとか、本当に必要かということとはあまり判断材料にはならないのだ。もっと言えば「みんなが持つてるから」「誰それが持つててカワイイから」が優先する。オリジナルはないのか！と思う。それが価値観の違いなのだろう。

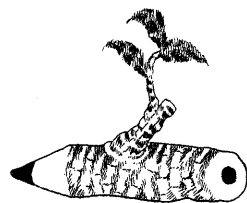
「見る目」というのは、育った環境によって作られるのではないだろうか。いろいろな体験をし、自分を知り、相手にも知らせ、表現していく。その中で培われるものが「みる」ことである。中教審の調査で現代の子どもは表現力が乏しいとあった。ちゃんと見ることができない子に表現などでさるはずがない。きちんと人と関わって、自分をよく見て知っていなければできないのだから。そのくせ、「自分なりの解釈」をよくするように思

う。

よく耳にする「僕的には」「わたし的には」ということである。マイペースは利己主義とは違う。掘り下げたり、深めたりすることを大人（多

くは先生や親）が要求すると、するりと身を交わして逃げようとする。抜き差しならぬ状況を回避するのが実にうまい。不況で就職難というが、この企業もそんな人材を欲しがらないと思う。幼稚園からそれは始まっているのだから。幼稚園の教諭をしている友人から聞く話では、殆ど親の方に問題あり、だそうである。人の話を聞けない子は、親に注意しても親が怒り出すケースが多いというのである。

息子の部活の保護者会が新年早々、開かれた。顧問の先生が言うには親の細やかな愛情が子ど



もをダメにする、のだそうだ。極論だが、的を射ていると思った。子ども自身が好きでやっているスポーツ。寒かろうが、つらかろうがやりたいからやるのであって、大変なことではない。やらせてもらえる環境を作ったのだから、口出しすべきではないと思う。ところが、どの親も我が子のことしか考えられない。結果、子どもは子ども同士つながれない。自分さえよければいい。ダメなヤツは見捨てる……そんな状況でチームプレイなどできなからう。いくら個人技が秀でていてもそれでは勝てない。部活だけでなく、それは普段の生活にも影響してしまう。ところが、親たちは、「ひとの心配をする暇があったら自分のことをやれ」と競争心を煽る。いきおい、自己チューのプレイヤーが増えてしまう。

子どもは壁にぶつかるとも無くひ弱になっていく。ギリギリの我慢や想像力を働かせて必死に取り組むということを知らずに育ってしまう。複

雑な人間関係や様々な挫折感を味わうことなく（親が整えた）安全で平たんな道に行く。そこに表現力など育とうはずがない。やはり、子どもをだめにしてるのは大人であるらしい。保護者会の中で発言の際に名乗ったのはたった二人だった。基本的なマナーもできていなくて、子どもの躰などできるわけがない。いや、待てよ。少なくともそんな親の姿を「見て」は育つのもかもしれない。もうひとつ、顧問の他にコーチが言った言葉……。「やってる、やっているとこのヤツに限ってやっていません。やってるヤツはやってても満足していません。もっとさらに先を見ていますから、自分に満足していません。それは、サッカーだけでなく、勉強にも表れます。勉強しているのに点がとれないのは、やっぱりやってないんです」。

大人もそうだと思った。新年早々、反省！

（子ども劇場会員）